

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470400132		
法人名	有限会社 花しょうぶ苑		
事業所名	グループホーム 花しょうぶ苑		
所在地	三重県亀山市本町1丁目2番12号		
自己評価作成日	平成 21 年 11 月 11 日	評価結果市町村提出日	平成22年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470400132&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 11 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は<明るく和気あいあい>をモットーに利用者に関わっている。毎年来苑の介護相談員から 和気あいあいの雰囲気や日によっての格差がなく居心地が良い。利用者が何時も生き生きしているとの評価を頂いている。施設は街の中にあり近くの高校や小学校の生徒、児童との交流も開設以来続けており子供から高齢者まで地域の人々が気軽に立ち寄れるサロンの存在でありたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

亀山市中心部の昔からの文教住宅街に立地し、地域に根付く事業所を目指している。運営推進会議の定例開催や児童や生徒との交流、作品展への貼り絵の出品等で地域の理解を努め、運営者、管理者、職員が一体となって支援に当たっている。事業所内はデイサービスと共用の開放された玄関、アコーディオンカーテンの仕切りで、利用者、職員が行き来でき、孤立することのない、また話し声の絶えない明るい雰囲気の事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が家族との関係を保ちながら地域に根ざし明るく元気にく和気あいあい>と過ごせることを理念としている。また管理者、職員は利用者が日々ゆったりと生活できるようにケアに取り組んでいる。	管理者のリーダーシップのもと日々の話し合いや職員会議等で職員の融和を図り、地域で和気あいあいと一緒に過ごす支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の児童が季節の鉢植えを持って訪問してくれたり、高校の体育祭に声をかけてもらい観戦させてもらったりが開設以来続いている。また、地域の祭りにも参加し地域の方々とも幅広くお付き合いさせてもらっている。	事業所は自治会に準会員として加入している。また、管理者が小学校4年のゆとりの授業に講師で出向いたり、幼稚園児や小学生と相互訪問による交流、地域の夏祭りへの参加等もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や利用者の家族から相談を受けることもあり、共に考え話し合う事もある。また近くの小、中、高校生の見学なども受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設から現状や諸々の経過状況や報告をし、参加メンバーからは意見や要望、地域からの情報なども頂いて話し合い、サービスの向上に役立てている。	2ヶ月毎に開催され、直近の開催は11月である。メンバーは、包括支援センター職員、自治会長、民生委員、利用者及び家族代表並びに運営者、管理者、職員で構成され、事業所の現況や課題、評価への取り組み等協議されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新手続きや研修などで市役所を訪れ、日々の様子を伝えたり相談などもしている。	毎月介護相談員を受け入れ意見交換するほか、保健福祉課や地域包括支援センターとは随時相談問い合わせ等行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を発足させ、会議等で話し合っている。不穏、不眠時も利用者に対する職員の対応を工夫することで薬剤に頼らず対処している。	管理者及び職員は職員会議で拘束や虐待のない支援について話し合い、日々取り組んでいる。また、玄関は自由に出入り出来、無施錠である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時にマニュアルや月刊誌等を利用して話し合っている。また身体的にはもちろんのこと言葉の暴力はないか、日常的に職員に話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	少ない時間ではあるが福祉の月刊誌などを用い会議に場で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学や話す機会を何度も持ち、不安の解消や疑問に対しその都度対応している。また契約や解約時にはご家族が納得いくように時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月来てもらっている介護相談員とも利用者は顔馴染みで何でも話している。管理者や職員は様子や感想を聞かせてもらっている。また家族の訪問時や苑便りなどでも意見箱の利用をお願いしている。	重要事項説明書及び入り口に苦情受付窓口・外部相談機関を明記し、意見箱も設置している。また、家族面会時に職員が相談を受けたり、運営推進会議や家族会で意見を聞いたりし、受け付けた苦情等は「苦情受付シート」に記載対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の会話の中でも意見等が言いやすいように心がけている。要望等は出来る限り反映させて質の向上につなげるようにしている。	管理者は毎月の職員会議で話し合うほか、日常の話し合いを通じて職員の意見、要望等を受け止め、案件によっては上申し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与に過去半年間の勤務態度、実績を反映させるとともに、年1回の給与水準の見直し等にも反映させ改定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制の調整や、研修費の負担など研修等が受け易いように援助体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に入会し、機関誌等により全国レベルの理解を深めるとともに、三重県グループホーム連絡協議会等が主催する研修会にも参加し質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	デイサービス利用からグループホームに入居される方もあり、職員とも馴染みで思いを伝えてもらいやすい雰囲気心がけている。また、家族と共に何度も施設を訪問して慣れてもらい安心して利用ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や関係者から在宅時の苦労話などをよく聞き 本人の思いや家族の求めていることを踏まえたうえで、これからのケアについて何度も話し合い、家族との関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人や家族に思いや現状を十分に聞き、可能な限り柔軟な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日頃から家族という思いの中で接している。共に泣いたり笑ったり、また利用者にも教えてもらうことも多々あり、時にはねぎらいの言葉をかけてもらったりすることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には日々の利用者の様子を詳しく話し、家族と共に喜んだりびっくりしたりしている。盆や正月の外泊時には日々のケアの仕方を詳しく説明し落ち着いて外泊ができるようにしており、家での様子も詳しく聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外食や買い物時に知人や昔の同僚に会い声をかけられることもある。また家族と共に墓参りをしたり親戚の家を訪ねてもらったりしている。	職員は一人ひとりの生活歴や環境等アセスメントをもとに、昔の話を聞いては思いを共有し、希望があれば馴染みの場所や店に出向いたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	勝負な性格の利用者にリーダーシップをとってもらい各々の役割分担ができています。 職員は付かず離れずの立場で見守り、必要に応じそれとなく話の輪の中に入ることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入所後も病院や施設を訪問したり、家族に様子を尋ねたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や日常生活の中での観察から各々の思いや希望などを把握している。また家族等からも話を聞き把握に努めている。	一人ひとりに寄り添い思いや意向の把握に努め、意思疎通が困難な場合は、モニタリングや家族等からの情報をもとに検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前には本人や家族から今までの生活の様子を聞いているが、日頃の生活の中で、時には家族の知らない話をされることもあり、家族とびっくりすることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者の毎日の生活リズムを把握しているが、日によって心身の状態が変化することもあるので注意深く見守り状態に応じた過ごし方をさせていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で利用者の思い、また家族の希望などを聞き、担当者会議で話し合いながらそれぞれの思いに添えるような介護計画を作っている。	利用者の意向、家族の意見、日々の介護記録をもとに一人ひとりの状態や課題を毎月のケア会議で検討し、本年8月からは3ヶ月ごとに目標項目毎の評価を行なっている。	3ヶ月毎に評価する体制が整ってきており、介護計画書の見直し(更新)周期と時期を明確にされることを望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録記入のほか、連絡ノート、各種チェック表に日々の様子を記録し職員間で情報を共有している。また利用者が暮らしやすくなるように日々話し合いながら介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方に見える方の買い物や受診にその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小、中、高校生の訪問や見学の受け入れ、運営推進会議のメンバーである民生委員が相談や見学に見えたり地域の情報をいただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターとして利用者も親しみ信頼しており、24時間指示を受けられる体制になっている。定期往診以外にも随時往診や総合病院の紹介を受けられるようになっていく。	事業所の協力医(毎月往診あり)の他、利用前からのかかりつけ医で診療を受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスに看護職員がおり、協力医などからアドバイスを受けている。また看護師は近くに住んでおり、夜間でも駆けつけ対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が何度も見舞い、主治医や家族、病院関係者などから治療経過を聞いたりしている。また退院前には情報を提供してもらい退院後の生活についての相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	加齢に依る体力の低下などから重度化も考慮し本人や家族の意向を伺いながらかかりつけ医と話し合う機会を持つようになっている。	重度化した場合にあっては、本人及び家族、協力医の話し合いを持ち、特に協力医との連携の下、その都度対応することになっている。	終末期のあり方について事業所の方針を明確にし、利用開始時から早い時期に本人、家族の意向を確認する体制と対応方針を検討され、職員共々共有されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設のデイサービスの看護職員や応急手当などの研修を受けた職員から方法などを教わり急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員に来てもらった避難訓練や自主避難訓練を行っており、ご近所とも日々の交流の中で協力が得られるようお願いしている。また地震を感じた時や、災害の報道の度に利用者や避難の仕方や経路の話をしている。	毎年1回、今年は10月に自主避難訓練を利用者も参加して実施している。又、乾パン、水、コンロ等備蓄している。	夜間の災害を想定した通報、職員招集、避難誘導等訓練の実施を早急に検討されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩として、親や身内と思いい接するようにいつも話している。また各人に応じた対応をしている。	管理者及び職員は職員会議や日々の話し合いで態度、言葉かけ等について話し合っている。また、個人記録等書類は収納場所を定めて取扱いには気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	新聞やテレビからの情報でドライブの行き先や食事の献立を決めてもらったりしている。また意思表示の苦手な方には例を挙げて決めてもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で休んだり、片付け物をしたり、その日の体調や希望に応じた過ごし方をしてもらっている。家族や知人が訪れ話に花が咲き食事が遅くなることもあるが本人の思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る物を自分で決められる方もあるが自分で決められない方には職員が寄り添い相談にのり支援している。また開設以来出張してもらっている地域の床屋さんともなじみで思い思いの髪型にってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で出た物を献立に入れることもある。みんなで愛情を注いで育てた無農薬の野菜も調理し利用者と一緒に頂いている。食後は出来る範囲で各々が出来る仕事をしてもらっている。	その日の献立を利用者の方が書いて食堂に掲示している。野菜の下処理、配膳、片付け、茶わん拭き等は利用者も手伝っている。また食事はマイカップ、マイ箸で、職員も同じテーブルを囲み、会話のある和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の嗜好や食事量、水分量を把握している。多種類の食材使用やバランスを考えた献立にし、幕の内弁当や懐石風の盛り付けにし、楽しんで食べられる工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをしてもらっている。磨き方が不十分な方には、声をかけ見守りや介助をおこない、義歯は夜間、洗って洗浄液につけている。自歯の方は歯科受診し歯石を取ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の行動の様子で尿便意を察知し、失敗が少なくなるようそれとなく支援している。また家で紙パンツを使用されていた方も排泄パターンを把握し布パンツに移行している。	本人の訴えや表情から理解に努め、自然な排尿ができるようにトイレに誘導し、合わせて羞恥心が損なわれない配慮も心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い野菜は圧力鍋を使い食べやすくし、乳製品を含めた水分の摂取や食事量にも配慮している。また、なるべく自然な排便を促すように体操や歩行訓練を毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	昼間ゆっくり入浴し、夜はテレビなどを見て過ごしたい方が多い。毎日入浴できるようにしているが、何日も嫌がられる方には声かけの工夫やタイミングを見計らい気持ちよく入浴できるようにしている。	毎日、午後に、入浴できる態勢になっている。介助に当たっては会話をしたり、歌を歌ったり等こころを和ませている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間よく眠れるように昼間は極力フロアで過ごしてもらっている。職員は各々の生活のリズムを把握しており、夜寝つけない方にはゆったりした態度で接し薬は使用せず寝ていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明は常時職員が見られるように個別ファイルに入れてある。また症状の変化や薬の変更は等は口頭、ミーティング、申し送りノートで確実に伝わるようにしており、看護職員や協力医とも連携が取れるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活の様子を本人や家族から聞き、各々の得意分野で食事準備や書き物などの役割を担ってもらっている。だんだん上手く出来るようになり、本人やご家族も喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花見や外食、ドライブに、その日の心身の状態や各人の希望に添って出かけている。また暖かく天気の良い日には屋外でお茶を飲み地域の方と話をすることもある。	玄関先でのティータイム、洗濯物干しや取り入れ、菜園いじりを行なう他、近隣の学校や地域の行事、外食、ドライブ、買物などに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域の行事などでは少額のお金を持ってもらい、各人が買い物をしてもらっている。職員はそっと付き添い見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には職員がそっと付き添い家族等に電話をかけてもらったり、年賀状を出したり、季節の挨拶状が届くと近況を書いてもらい返信している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中央には利用者がくつろぐフロアーがあり天窓から自然な光が差し込んでいる。台所からは季節の食材を使った料理やおやつの匂いがしてくる。壁には行事の写真やみんなで作った四季折々の貼り絵があり季節を肌で感じゆったり過ごせるようにしている。	天窓があるロビー兼食堂は居室にも面して広がりがあり明るい。壁には四季折々の貼り絵や行事の写真、利用者の書道作品等も飾られゆったりとくつろげる雰囲気を工夫している。また、玄関やデイサービスとはアコーディオンカーテンで利用者、職員が行き来でき、閉塞感のない作りである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファーや小さいテーブルと椅子を置き、好きな時に好きな人と過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの生活スタイルに合わせ、使い慣れた家具を置いたり、家族と撮った写真や手紙を貼っている方もある。また職員は利用者が心地よく過ごせるように相談に応じ援助している。	八畳の洋間に使い慣れたベッド、箆笥、棚、テレビなど置かれ、壁は写真や作品などで飾られて居心地よさを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の居室の引き戸には好みの色の折り紙で作った名札を付けている。また利用者が不安や混乱する物がないか、職員と話し合っている。		